

経営比較分析表（令和4年度決算）

千葉県横芝光町 東陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	ド訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中後病院	看護配置
22,697	6,433	第2種該当	-	10：1

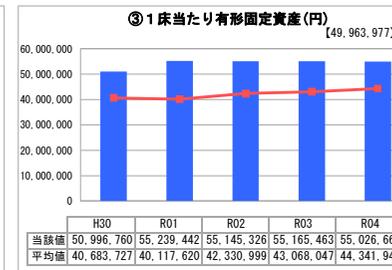
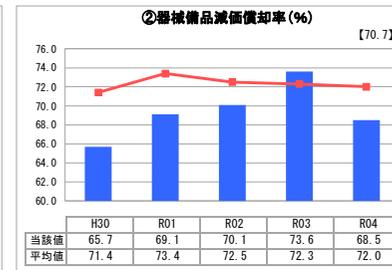
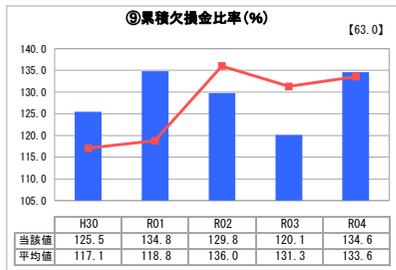
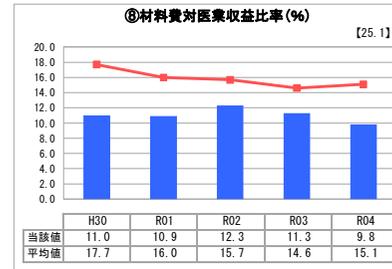
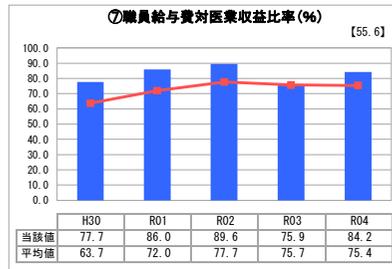
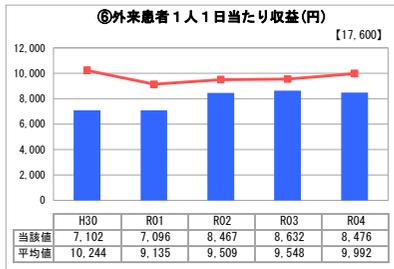
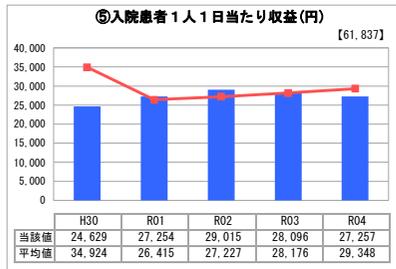
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
55	40	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	95
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
36	35	71

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の形態・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、町内唯一の入院施設を備えた病院であり、地域住民にとってなくてはならない医療施設として、重大な役割を担っている。
 当院が属する山武長生東陽保健医療圏の今後の必要病床数は、高度急性期及び回復期は不足し、急性期及び慢性期は過剰となると見込まれていることから、今後も近隣病院や診療所、介護関係者と連携を図り、町立の地域病院として急性期から回復期、在宅医療まで一貫した医療提供を可能とした「地域に根ざした病院」を目指していく。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

千葉大からの派遣減と医師退職に伴い、外科に係る外来診療及び入院患者数が減少しており、地域包括ケア病床の拡充により入院単価の向上や病床の効率的な運用を図っているところではあるが、入院患者1人1日当たり収益も伸びていない状況であることから、経常収支比率、医業収支比率は類似病院の平均値を大きく下回っている。また、累積欠損金比率及び職員給与費対医業収益比率も類似病院と比べ高い水準にあり、医師の確保などにより、患者を呼び込み、収益を確保できるかが課題となっている。

2. 老朽化の状況について

平成3年建設より30年以上が経過し、耐震性を含め建物自体は目立った老朽化は見当たらないものの、排水管や給水管等の細かい部分においては、経年劣化による不具合が生じ、修繕費も増加傾向である。次年度以降においても長期計画的に施設修繕を実施し長寿命化を図っていくものである。

全体総括

住民が質の高い医療を安心して受けられるよう、感染早期発見のための発熱外来や感染対応病室も確保し、地域に根ざした病院を目指している。さらに進む高齢化に向け、地域医療を担うためには医療提供体制の充実強化が求められていることから、町立の地域病院として急性期から回復期、在宅医療まで一貫した医療提供を可能とするためにも、医師を含む医療従事者を確保することで、医業収益を向上させていくことが最重要課題である。
 また、高齢化による地域の人口減少に伴い、医療機関相互の協議による病床機能の分化・転換も視野に近隣病院等との連携を更に強化し、経営改善に取り組んでいくことが重要だと考えられる。

※1 類似病院平均値（平均値）については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。